

在七天上 地月人 願為連 理殿見 枝殿見 天留一 釵股合 不陽殿 昭陽殿 梨花一 風吹仙 珠箔銀 聞道漢 雪膚花 樓閣玲 兩処茫 排空馭 能以精 悠悠生 耿耿星 夕殿螢 宮葉滿 春風桃 太液芙蓉 未央柳

芙蓉如 秋雨梧 梨園弟 孤燈挑 鴛鴦瓦 魂魄不 為感君 升天入 忽聞海 其中綽 金闕西 九華帳 雲髻半 猶似霓 合情凝 蓬萊宮 唯將舊 釵擘黃 夜半無 天長地 久有時 盡

此恨綿 綿無絕 期 在天願 比翼鳥 詞中有 但合心 釵股合 回頭下 一別音 玉容寂 花冠不 攬衣推 軫教小 中有無 山中一 上窮碧 遂教方 臨印道 翳翠衾 遲遲鐘 椒房阿 西宮南 對此如 何不淚 垂

- 一 皇后中宮につぐ女官。「雄略天皇七年稚媛為女御、是始也。」(書紀)。桓武天皇の御代紀乙魚、百濟王教法を女御とし、後次第に格式上り女御より直に皇后にも上る。又上皇・皇太子の妃にも女御がある。
- 二 女御につぐ女官。はじめ天皇のころもがえを司り、後天皇の獲所に奉仕する。
- 三 桐壺更衣をいう。
- 四 僧侶の安居の功を積んだ年を数える語を藤といひ、それを積むことの少ないもの。転じて、身分地位の低いもの。上藤の対。

- 五 三位以上の官人(參議は四位も)。公卿(公は攝關大臣、卿は大中納言參議)に同じ。
- 六 殿上人(テンシヤウビト)(四位五位、(威人は六位も)の昇殿を許された人)に同じ。

いづれの御時にか女御更衣あまたさぶらひ給ひける中に、いとやむごとなききはにはあらぬが、すぐれて時めき給ふありけり。はじめより我はと思ひあがり給へる御方々、めざましきものにおとしめそねみ給ふ。同じほどそれより下藤の更衣たちは、ましてやすからず。朝夕の宮仕につけても、人の心をのみ動かし、恨みを負ふつもりにやありけむ、いとあつしくなりゆき、もの心細げに里がちなるを、いよいよあかずあはれなるものに思ほして、人のそしりをもえはばからせ給はず、世のためしにもなりぬべき御もてなしなり。上達部上人なども、あいなく目をそばめつゝ、いとまばゆき人の御おぼえなり。もろこしにもかゝることのおこ